

矢野大和新聞

友人の会3300人の会
現在300名突破



第 3 号
平成24年7月1日
発行：矢野大和事務所
発行責任者：矢野大和

新CDは8月22日 発売決定

購入申込希望の方は事務所までお問い合わせください



この頃、頭が少し涼しくなってきました

5月6日にコンパルホールにて収録いたしました。250人ものお客様が来てくれて、本当にありがたかったです。既に録音も終了していて、東京の「ビデオアーツミュージック」の前田さんにお願いで、現在編集をして頂いています。今回は前回より絶対に面白いと思います。家族を中心にしゃべ

らせてもらいましたが

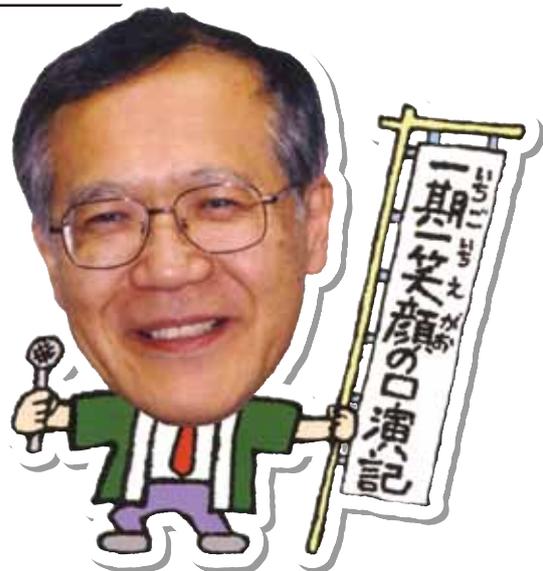
1. 娘の成長
 2. 母親の愛情
 3. この頃の出来事
 4. おおいた観光特使としての活動
- 等を入れております。多分新しいネタも多くて楽しんで頂ける事と思いますので是非聞いて下さいね。

大和のCD海を渡る



アメリカからの手紙

皆さん、信じられない事かもしれませんが、私のCDが今年アメリカに渡ったのです。今年1月、突然国際郵便でCDを購入したいとの手紙がアメリカから送られてきました。その方はご両親が大分県日出町に縁のある方で、カリフォルニア在住。日本人の友人が1月に里帰りをした際、お土産にと頂いたのが、私のCDだったのです。



聞いてみた所大層面白くて虜になり、他のCDも欲しくなつて、ロサンゼルス、日本の書店にも問合せをしてみました。日本書店にも問合せをしてみました。入手困難との事。半ば諦めかけていましたがどうしても諦めきれずお手紙を送つて下さったのでした。私も、事務所のスタッフも最初は信じられませんでした。これは本当の話です。アメリカからわざわざ申し込みしてくれることに私も感動し、お返しはいいからとCDを送りました。そうしたらまたお返事をくださり、なんと50ドルの郵便為替が入っていました。ビーフジャーキーやジャムまで送られてきたのですから、信じないわけには参りません。これこそ本当にご縁を感じました。どうかロサンゼルスあたりで広まって頂いて、私をアメリカに呼んで頂けたら嬉しいですね。いつかタイトルが「大和とつこ海を渡る」になるかもしれません。スタッフ曰く、大分県ゆかりの方だったからたまに言葉が分かったけど、他県の方だったから分からなかったかも？・・・

名称が「笑わせたいわ笑学校」に決まりました。

皆さんからたくさんアイディアを出して頂きましたが、会の名称は、「笑わせたい」と「笑わせ隊」「対話」と「大和」を掛け、「笑」を重んじるという事で、「笑わせたいわ笑学校」と命名です。これからも未長く、宜しくお願ひ致します。会員は「大分合同新聞」開催「文化教室」の「人の心を掴む話し方教室」の卒業生で構成しています。その笑学校の役員が決まりました。

生徒会長

▼井上 杉夫さん（わさだ2期生）

副会長

▼石橋 紀公子さん（合同2期生）

1期生委員長

▼マックビーン 光子さん



話し方教室 第1期生



話し方教室 第2期生（わさだ教室）



話し方教室 第2期生（大分文化センター教室）

わさだ2期生 委員長

▼鹿島 愛子さん

合同2期生委員長

▼三輪 妙子さん

既に3期生も現在「わさだ教室」で7名受講中ですので、9月終了後はこの会に入って頂いて、より多くの発表の場を設けて行きたいと思っています。会費や会則はありません。3ヶ月に1回程度、大分市内の会場を借りて発表会をしたいと思っております。その事務についてはマックビーンさんがしてくれる事になりました。1回目は去る6月15日、アイネスで開催しました。2回目は9月2日、Zエス大分放送局スタジオキャンパスに決定しています。

第1回「笑わせたいわ笑学校」の発表会



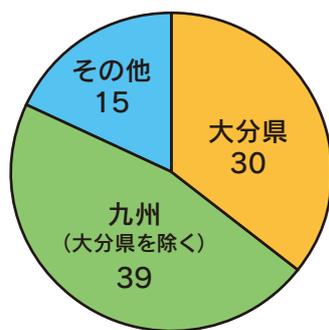
大入りでした

6月15日（金）19:00～21:00 大分市高砂町にある男女共同参画プラザ「アイネス・畳の間」にて開催されました。どうして畳の間になったかは、私の独断です。畳が好きな為です。当日どれくらいの方が来てくれるかと不安でしたが40人を超すお客様（参加者含む）があり、胸を撫で下ろしました。瀧澤さんの司会に始まり、石橋副会長の体操、ゲストの中山さんの落語、そして発表の本番を迎えた1期生岡崎さん、わさだ2期生河野さん、合同2期生赤峯さんお疲れ様でした。練習の成果が十分に出ていて最高でした。その後井上生徒会長のあいさつがあり、矢野が最後を締めくくりました。私の事務所での反省会も多いに盛り上がり、深夜まで会は続き、まさに話し方教室の反省会という感じでした。次回の9月2日の発表会も既に決

第3期話し方教室 受講生7名順調です

話し方教室も順調に進んで第3期の募集も6名に対して7名となりました。この教室が出来るのも、実は仲間がいるからです。私が佐伯市役所勤務時代に知り合った、曾足（そあし）さんという女性の方が事務所に来てくれるようになり彼女が時々「話し方」の講師を代行してくれるようになりました。彼女は佐伯ケーブルテレビのアナウンサーをされていて、一緒に佐伯市の広報活動をしたという経緯があります。彼女が代行してくれるお陰で安心して任せられるようになり、私が口演等でどうしてもいけない時は彼女に講師をお願いし、非常に助かっています。第4期生の話し方教室も9～10月に募集が始まります。6名の定員に対して、既に5人もの申し込みが来ています。今までに卒業している1～3期の方々のご縁をつくってくれているのです。本当にありがたい事です。このままやっつけいけば、来年度末までには卒業生は50人を超えるかも知れない。そうなるよう、頑張りたいと思っています。

4月～6月の分析



口演数 平成24年4月から6月

4月から6月までの口演回数を打ち出してみました。合計で84回です。内訳は大分県内30回、その他の九州39回、九州以外15回、計84回です。また、この3カ月間でどのくらいの口演を受けたかですが、4月というのは毎年少ないし、というのも年度初めの月なので、公的機関はもちろん、民間もまだ体制が整っていません。なので依頼が少ないですし、当然の事ながらゴールデンウィークも口演依頼が少ないのです。分析すると、この3ヶ月の間に口演依頼が多く入るのは、後半の1ヶ月半という事になると思います。ひと月に平均30回の依頼が欲しい所ですがそうはいきません。私の仕事は口演が無いと全てがうまくいかないのですが、ばらつきがあるのです。7～9月までは営業も少し力を入れて頑張ってみようと思います。それでも今年になってこの半年で203回となりました。プロフィールに書いてあるように、今年も口演回数が400回を超えるように頑張りたいと思います。

初めての和歌山県



和歌山県敬神婦人会にて



温かく迎えて頂いた嶋田家の人々

ご縁とは本当にありがたいことです。全国の高等学校の大会で嘶をさせて頂いた時に、和歌山県からお見えになっていた嶋田先生が私を呼んでくださいました。しかも嶋田先生は「田殿

丹生神社」(たどのにゆうじんじや)という神社の宮司さんでもあります。和歌山県一敬神婦人会」といって女性の会でも通りしゃべらせて頂きましたが、それがバカに受けてしまいました。和歌山県の神社の関係の時は又呼んでくださいませ。嶋田先生はご家族全員でお宮を守っています。こんな家庭を作りたいと思いました。初めての土地、和歌山で最高の思い出ができました。感謝。

予告編 矢野大和 サンフラワー号にて落語

皆さん、関西汽船で先ごろ話題になっている「弾丸ツアー」というチケットをご存知ですか？大分または別府を夜出港し、次の日朝から夕方まで関西方面で過ごしその夜の夜に神戸又は大阪南港を出る、というつわものツアーなのです。その船では様々なイベントが組まれていて、生バンドの演奏やダンスなども披露されているそうです。そこで目をつけられたのが、呉南落語組合。もう何人もの仲間が船上寄席ならぬ落語を一席、行きと帰りの船の中で披露するというイベントを頼まれました。会長の私が出ない訳には参りません。乗船するのは来る8月31日から9月2日にかけてです。乗船されているお客様はもちろん無料で落語が聞けます。皆さんいかがですか？「弾丸ツアー」に参加して「矢野大和の落語」聴いてみませんか？

ブログに書けない ここだけの話

サラリーマンがよく事務所の前を通って行きます。それで思っていたのが、事務所の窓ガラスに教訓を貼ろう。気に入った短歌があれば、それを載せるという事でした。それを月替わりにしています。下手な字では書けないと思いお願いしたのが、日田市で大変お世話になっている武石さんという女性の書家です。銘は榮華さんといつてとても有名な書家さんなのです。その方に頼んで毎月有名な短歌や道歌を書いて頂いて事務所に貼って出しているのです。道行く人が良くみてくれて、とても気持ちが良いくなるのです。中には「このきれいな字は大和さんが書いたのですか？」などと言われます。私は躊躇なく「はい」と答えています。一番本当は日田の武石さんです。一番うけた道歌は

苦にやむな
金は世上にまいてある

欲しくばやろう
働いて取れ

です。皆さん、事務所の前を通ったら寄って下さいませ。

お宮の話 (その三) お宮を支えてくれている人たち

宇目町には、大分県一の神楽の舞手がいる：その名人が育てた神楽保存会が、檜野木地区のお祭りでも舞う：その引力は相当なもので、たまたま横浜から遊びに来ていた友人の姉もこの話に飛び付いた。矢野大和さんが事前に用意してくれた地図は明瞭：「はずだつた。ところが、土地勘がない上に方向音痴の私たちにとつては、「嘘やろ?!」という道の迷い方をして、地区の周りを30分も40分もウロウロした。それを心配して、辛抱強く携帯で道を教え、しまいには途中でまで出迎えて来てくれたのが、90世帯の檜野木地区をまとめる区長の山田治郎さんだつた。この日はあいにくの天気で、神楽を熊野神社で奉納できるのか、雨なら場所を移して公民館でという決断を迫られ、朝まで眠れず、結局、公民館での開催に踏み切り、今は無事お神楽も始まってホッとしているという山田さん。照れくさそうに、「ワシヤ、じつは雨男」とこっそり教えてくれた。「このお神楽のために地区の人たちが一戸当たり3,000円の負担金を払ってくれる。高齢者が非常に多いこの地区では、大きな負担のはず。それでも皆



天気でハラハラさせられた
区長の山田さん

さんの協力を得られるのは、このような行事がどれだけ楽しみにされているかという証のようなものですね、こう笑う山田さんは敬老会のお世話から神社を何かと支え、区にとつてはやはり頼りになる存在。

■「降神の儀」と「昇神の儀」



透き通った声で降神の儀をおえた
鍵取りさんの矢野さん

さて、この日、神事を執り行つたのは日頃から神社の鍵を預かり、宮司に代わつて神事を行つて頂いている「鍵取り」という役目の矢野一朗さん。大和さんからは「兄貴分」と教えられていた人。今日の全ては、この人が執り行つ神事から始まる。とりわけ、神社から公民館へ場所を移しての奉納神楽。こんな時は、神様を案内する役目も加わる。「仮のお社をつくり、神様をお迎えにやなりません。お迎えする場所を清め、『今日はどうぞこちらへお移りください』と総代などみんなでお迎えして、五穀豊穰、無病息災をお祈りします」。矢野さんによると、熊野神社のご神体は大きな石。なんでも、年毎に大きくなって、今では抱えられないほど大きなものになったという。「それで、今でもご神体は成長し続けているんですか？」と聴きそびれたのが何とも残念。さて、お移りいただいた神様を無事お見送りするのも矢野さんの大切な仕事。全ての行事が終

わつたのを見届け、神様に神社の方へお帰りのたぐのた。この「降神の儀」と「昇神の儀」をつつがなく終え、神様もさぞかし上機嫌で帰つて行かれたのではないだろうか。

■「地域のご恩に報いたい」

大和さんが宮司を務める鷹鳥屋神社の総代を務めてきた高山林さん82歳もまた神様との深いつながりを感じる人。私が話を聴く間にも、通りすぎる地区の人がにこやかに高山さんの顔を覗き込んで挨拶を交わしていく。その姿を見ているだけでも、この人の人柄がうかがえる。「早くに両親を亡くして苦勞する中で部落の人たちが何かと助けてくれた。何とかそのご恩に報いたいと思ひ続けてきた」。そう話す高山さんは、雨の日も風の日も境内をきれいに掃き清めてくれると大和さんから聞いた。寄付を集めるのでも、76軒を一軒一軒丹念に回り、留守がちで出入りの激しい家などは、5回も6回でも足を運ぶという。高山さんに寄せる地域の人の信頼の厚さは聞かなくてもはかることができる。今では失われつつある正しく、健やかなコミュニティの形。一朝一夕ではなしえない、絆のもとに育まれた地域の形。高山さんも、それをとりまく人々も宝物だと思つた。



総代 高山林さん

■宇目町神楽保存会



名人親子の貴重なツーショット
現代代表の力丸さんの奮闘を手伝う義幸さん

そんな地域に生まれ、育つてきた宇目町神楽保存会もまた、地域の力を見せてくれたひとつ。お辞儀や入場の仕方ひとつをとつても、凛として美しいのは、単なる趣味ではなく、「神様に奉納するもの」という思いや覚悟が込められているからに違いない。若者が力のあるエネルギーある舞を見せたかと思つと、彼らに混じつて、素人目にも何かが違つていっぺんにわかつてしまふほどの舞を披露したのは現在の代表、首藤力丸さん。保存会の創立者であり、大分県きつての名人とうたわれた首藤義幸さんの息子さんだ。義幸さんの父もまた名人だつたという、三代続く名人の家系。過疎化が進むこの地域で、これだけ立派な保存会が続いているのは、彼らが尊敬を集める神楽舞であると同時に、その人徳にもよる。名人に、名人と呼ばれる人の舞はどこが違うのか尋ねてみると、「舞にしろ、太鼓や笛にしろ、味がある」と。観る人を真剣に引き込んで行くには、演じるものに自分自身が真剣になりきつていかななくては行けないと義幸さん。「そんな時は、面を取つても不思議とその顔になつちよんのじやなあ」。